

# コロナ禍での前進 福祉的就労支援現場で起きた変化

MotherNess Publishing 代表

羽塚順子

福祉現場では、コロナ対応に苦慮される日々が続いていると思います。長期化して先が見えない中で、福祉的就労の支援現場において、「今できること」の対策から、思わぬ効果をもたらした2事例を紹介させていただきます。

一つ目は、ITリテラシーの向上例です。現在、私はいくつかの自治体さんで就労支援施設向けの研修をコーディネートさせていただいていますが、ある県の担当者さんから、研修会場のコロナ対策について相談を受けました。その前に他県でオンライン会議ツールであるZoomとSNSの使い方のオンライン研修を始めており、施設間連携とSNSの発信力が強まっている手応えを感じていたため、迷わず「今年度はZoomを使った研修に切り替えてみませんか？」と提案。担当者さんもZoom初心者でしたので「参加申し込みがないのでは？」と不安そうでした。そこで、県内各施設に「Zoom初心者対象のレクチャーを業務終了後1時間、同内容で複数回実施し、質問を受けます。その後、Zoomを使った研修があれば受講してみたいですか？」とアンケートを取ってもらいました。回答は「YES」が多数。さっそく、県福祉課とセルフ担当者さんにレクチャーしてZoomの使い方に慣れていただき、施設職員向けレクチャーを実施。その後、本番の研修を実施しました。

講師の方々もZoomは初挑戦。徳島、新潟、大阪など遠方の講師にもご協力いただきました。画面上で資料共有ができるので、参加施設さんから「わかりやすかった」「全国幅広い講師の話が聞ける」「会場まで行かず参加できるのは良い」等のポジティブな感想が寄せられました。さらに、Zoomのチャット機能を

使って、集合研修では手を挙げにくかった質問や意見が次々と出ました。研修内容を録画できるので、データ共有で後から見ることもできます。使い方を覚えた施設職員有志でZoom交流会を開催すれば情報交換もできます。

また、今まで手をつけていなかったSNS発信を開始されたり、イベントや販売機会の激減から、ECサイトを立ち上げ通販を始めた施設もあります。コロナ以前は苦手だと敬遠していたITが、コロナによって見事に活用できるようになったのです。

もう一つは、新しい取り組みの実践例です。先に触れたECサイトの立ち上げも、対面販売から通販へ切り替えた新事業ですが、ご紹介したいのは、施設内での「三密」を避けるため、数名の利用者さんを交代で散歩に連れ出しているという都心にある施設。「人混みを避け、どこに行っても何をすればよいのか」と悩んでおられました。そして、地域の親の会さんと協力して、施設から20分程度で行ける公共施設内に広めの部屋を借り、不定期ながら江戸時代からの「千鳥うちわ」という工芸品の継承指導を受け、未知なる「職人技体験」に取り組まれたのです。これが施設長さんの予想を超え、細かい反復作業が得意な特性を持つ利用者の方は、職人レベルにまでハマるようになりました。

施設とは異なる環境に行く新鮮さ、密にならない広い部屋で、利用者さんたちも楽しみながら職人技術を身につけられる「伝福連携」（伝統と福祉の連携）の新しい取り組み。「施設の外に出なければ」という憂鬱だったコロナ対応がもたらした思わぬ効果でした。

皆様も、何とか逆転の発想で、前向きにコロナとの共存ができるようになればと願ってやみません。